

めぐみ

鎮西敬愛学園通信

No. 73 2018年 冬号

敬愛幼稚園／敬愛中学校／敬愛高等学校

〒800-0035 北九州市門司区別院6番1号

中・高 TEL 093-381-3537 FAX 093-391-8049

幼稚園 TEL 093-371-2267 FAX 093-391-9385

敬愛小学校

〒800-0057 北九州市門司区大里新町11番7号

TEL 093-381-0611 FAX 093-381-0601



こゝろ

今日一日の実行こそが
人生のすべてである。

平澤興

平均寿命が八十歳と聞けば、そこまで生きるといふ感覚で様々なことを考えます。八十年の人生設計とまではいかずとも、将来の目標を設定し、計画を練り、実行する。うまくいかなければ、改めて目標を立て直し、計画を変更したり、やり方を変えてみたり…。誰もが、迷いながら、悩みながら、長短の差こそあれ将来のことを考えて生きているのだらうと思います。

しかし、当然のことながら、確実に八十歳まで生きるといふ保証はありません。明日の命さえ分からないのが私たちの人生です。先のことは十分に気を取られて、今がおろそかになってしまつては、目標の達成もおぼつかなくなるでしょう。

とかく人生というと、生まれてから今日に至るまでの期間として受けとめがちですが、結果としてどれだけ長い人生であつたとしても、つまりは一日一日の積み重ねであり、今この瞬間にしか私のいのちが活動できることはありません。

今日一日こそが、私の人生そのものであり、この一日をどう生きるか、それによつて人生は違ったものになります。八十年のうちのたかが一日ではなく、人生においてたった一度きりの今日一日、今この時。そう受けとめていけたら、何気なく過ごしている時間が、かけがえのないものに変わっていくと思えます。その日々の積み重ねが人生の長さになり、さらに人生の幅にも深さにもなるのです。

一刻も途切れることなく紡ぎ出される私の人生。ここにあるいのちの躍動は、時間的にも空間的にも無限につながり広がっています。だからこそ、今を、そして未来を、自身を、そしてあらゆるいのちを大切に生きなければなりません。どのような人生を歩むにしても、それが私の人生であることを受けとめ、今日一日をいのち一杯に生きていきたいと思えます。

宗教科 谷川宏済

敬愛高等学校 第68回卒業証書授与式

名誉学園長（浄土真宗本願寺派前裏方様） お言葉

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。ご家族の皆様のお喜びもさこそと拝察致しまして、心からお祝い申し上げます。おめでとうございます。

卒業生の皆様は、卒業の喜びとともに、多くの人に支えられた、助けられた、励まされたなど、感謝の思いをもって、この場に臨んでおられることでしょう。それは、敬愛で学ばれた証だと思えます。お釈迦様の言葉を聞き、親鸞聖人のみ教えに触れ、ご自分の心を見つめて育ててくださいました。

親鸞聖人は、ご自分を厳しく見つめられ、阿弥陀如来様の光に照らされてあきらかになった人間の闇を「煩惱具足の凡夫」とお示しになりました。

光がなければ、闇が闇だとは分かりません。その光とは、阿弥陀如来様のご本願です。阿弥陀如来様のご本願は、「人間が闇を抱えているからこそ救わずにはおれな

い」とはたらいてくださいます。

親鸞聖人が阿弥陀如来様のおはたらきを述べられたお詩、ご和讃のひとつに、次のご和讃があります。

本願力にあひぬれば

むなしくすぐるひとぞなき

功德の宝海みちみちて

煩惱の濁水へだてなし

現代語訳では、「阿弥陀如来様が、すべての人を救うと誓って成し遂げられた本願のはたらきに出遇った者は、むなしく迷いの世界にとどまることがない。あらゆる功德を具えた名号は、宝の海のように満ち渡り、濁った煩惱の水であっても何の分け隔てもない」とお述べです。そこには、阿弥陀如来様のご本願に出遇い、人間に生まれたことを喜ぶ世界が開かれます。

たくさんの方々に囲まれていても、寂しさを感じたり、自分には甘く他人には厳しかったり、あと少しの勇気が出なかったり、いざとなると利己心を翻せないような私どもです。また、「本当に阿弥陀如来様がお救いくださるのだろうか」と疑うような私どもです。

しかし、そんな阿弥陀如来様に背を向けることも、救いの妨げにはならず、むしろそれだからこそ、救わずにはおれない、と阿弥陀如来様はおはたらきくださいます。

阿弥陀如来様にお任せするとき、阿弥陀如来様の光に遇い、私どもの心もやわらかく自由になります。卒業しても、手を合わせるひと時をもち、ご自分を見つめると同時に、阿弥陀如来様のお救いのなかにある安らかさを感じてください。

今日の社会は、ビッグデータに人工知能、グローバル化に、変化が当たり前の時代になりました。科学や技術の発展に、日々の生活がなかなか追いつけません。皆さんは、学校を卒業しても、学び続けることやコミュニケーション能力や、協力する力、正解のないような問題を考える力が必要となるでしょう。それには、自分に対する自尊の心や、失敗を糧にして先に進む勇氣や、他の人に対する信頼感が育っていることが大切です。そして、それらを育てるのは、阿弥陀如来様に見守られているという安心感です。

真実より自分に都合のいい解釈を通そうとする政治や経済の有様ですが、敬愛高等学校で、自分一人の幸せではなく、他のいのちを敬い、ともに生きる人間の姿勢、生き方を学んだ卒業生の皆様には、何が真実かを見抜き、失敗を恐れず、明るい未来を目指し、多様な価値観の人々と互いに敬い、協力して、問題の解決を図る社会の一員として活躍くださることを期待致しまして、お祝いと致します。

（文責 鎮西敬愛学園）



答 辞

厳しい冬を乗り越えた梅のつぼみが開き、寒さの中にも春の訪れが感じられるようになりました。そんな花たちが明るく咲き誇る今日の良き日に、私たちは卒業します。ご多忙の中ご出席頂きました名誉学園長様を初め、ご来賓の皆様、先生方、保護者の皆様、在校生の皆さん、このような厳粛な卒業式を挙げて頂きましたことを、卒業生一同、心から感謝申し上げます。

さて、時が経つのもはやいもので、真新しい制服を身に纏い、不安や希望を胸に初めてこの学校の門をくぐった日から、3年あるいは6年が経ってしまいました。振り返ると数え切れないほど沢山の思い出が頭の中を駆け巡ります。体育大会や敬愛祭ではクラスや実行委員、応援団というように様々な場面でそれぞれ自分の力を発揮しま

した。思い通りのことができず、悩み落ち込んだ日もありました。しかし、どんな時も、先生方や卒業された先輩方、後輩、そして互いに高め合ってきた仲間がいてくれたお陰で、最後まで成功を信じてやり遂げることができました。一つ一つの壁を皆で乗り越え、絆を深めることもでき、ひとりひとりの成長につながったと思います。沢山の思い出は、多くの人たちとの関わりの中で生まれ、その人たちに囲まれて私たちは共に成長してきました。

～中略～

そして、この3年間一番近くで私たちを見守ってくれた家族。自分のことを一番理解してくれているのに、なかなか素直に「ありがとう」の一言が言えず、家に帰れば、学校のことを聴かれてもそっけない返事をしてしまいました。今日まで家族には、色々な心配や迷惑をかけてきたと思います。けれど、家族の愛情につつまれ支えられて、ここまで来ることが出来たのはどんな時も支えてくれた家族のお陰だと思っています。今まで素直に言えなかった気持ちを、今ここで伝えたいと思います。お父さん、お母さん、今まで本当にありがとうございました。

最後にこれから敬愛高校を担う在校生の皆さんへ伝えたいことがあります。私たち卒業生の中には部活動や生徒会活動などを通してつながった後輩との思い出が、沢山ある人も多いと思います。私にも、生徒会



活動を通して身近にしてくれた後輩たちがいます。頼りない私にも、皆さんは付いてきてくれました。先輩方が私たちに託した伝統や思いを後輩の皆さんにうまく伝えることができなかったかも知れません。しかし、皆さんが、私を先輩と呼んでくれることで、少しでも立派な先輩になろうと努力したことは間違いありません。先輩としてだめな部分もあったと思います。しかし、私にはそれでも助けてくれる仲間がいました。だから、皆さんにもそういう仲間を作ってほしいと思います。これから何度も壁にぶつかると 생각합니다。そんな時には周りを見渡して下さい。皆さんにはいつも、情熱で支えてくれる先生方、共に頑張ってくれる仲間や後輩、一番身近には家族がいるのです。私たちにも、頼ってきて下さい。できる限り手をさしのべて、皆さんのこれらの活躍を応援していきたいと思っています。

そろそろお別れの時間です。こんなにも

多くの人たちと関わり合いながら、この敬愛高校で成長できたことを心から感謝しています。何気なく過ぎ去った毎日は、私にとってかけがえのない宝物です。私たち卒業生は、明日からひとりひとり違う道を歩んでいきます。これから私たちが歩み出す道は楽しいことばかりではないと思いますが、これまで経験したことのないようなことを数多く経験すると思います。それでも、自分を信じ、困難に立ち向かって、これらの社会を生きていきたいと思っています。進む先に何があるうとも、ただひたすらに、自らの足で力強く歩んでいくことをここで皆さんと約束し、答辞とさせていただきます。

平成30年2月15日

卒業生代表 原田 佳代子



平成29年度 学習発表会

2月25日（日）に、学習発表会を開催しました。一年生は、

群読劇「We're going on a bear hunt」を日本語と英語で披露しました。これまで学習してきた英語力を活かした素晴らしい発表でした。2年生は、宗教の時間に学習した「無財の七施」を、自分たちの体験を交えて、情報科で学んだパワーポイントを使って発表しました。堂々とした発表に会場から多くの拍手を頂きました。3年生の「モチモチの木」の群読では、主人公の豆太が大切なじさまのために夜道をひた走る様子が伝わってきました。4年生は、家族や周りの方々への感謝の想いをテーマとして、合唱・合奏を披露しました。温かく美しい歌声がアリーナを包み込みました。5年生は、英語劇「Cinderella」に挑戦。とても綺麗な英語の発音で、一人一人が堂々と演じることができました。6年生



は「キャリア教育」をテーマに自分の目指す将来の夢について、プレゼンテーションを行いました。これまでの6年間の学びの集大成とも言える大人顔負けの発表でした。どの学年も日頃の学習の成果を発揮した素晴らしい学習発表会となりました。

特集 敬愛の教育 お茶の作法学習

本校では、15年前の開校以来、お茶のお点を学習し、保護者をお招きして学年ごとにお茶会を行なっています。学年が上がるごとに作法が一つ一つ加わり、6年生になると自分で抹茶茶碗を作り、お茶会を自分達で運営します。保護者の方に喜んでいただくこと、一生懸命練習し、お茶会の日はその学年の児童も朝からとても嬉しそうにしています。

このお茶会は保護者の方への感謝の気持ちを伝える場として設定しています。普段、恥ずかしくてなかなか伝えることができない「ありがとう」。静かな空間の中で親子が向き合い、言葉はなくても、お茶を通して互いの感謝の気持ちを伝える合う時間にできたらと考えています。「あなたがいってくれてありがとう！」「いつも本当にありがとう」「ここまで大きく成長してくれて、ありがとう」。お茶会のたびに、そのような心の声飛び交っているように思えます。

本校では、15年前の開校以来、お茶のお点を学習し、保護者をお招きして学年ごとにお茶会を行なっています。学年が上がるごとに作法が一つ一つ加わり、6年生になると自分で抹茶茶碗を作り、お茶会を自分達で運営します。保護者の方に喜んでいただくこと、一生懸命練習し、お茶会の日はその学年の児童も朝からとても嬉しそうにしています。



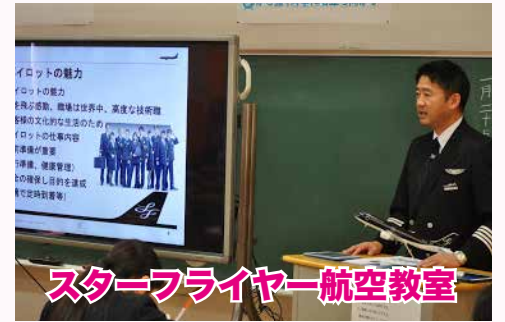
マラソン大会

1月恒例のスポーツ週間、そして、マラソン・縄跳び大会を行いました。寒さが厳しい1週間となりましたが、子どもたちは元氣一杯。自分のタイムを伸ばそうと、マラソン・縄跳びの練習に励みました。当日は、マラソンで多くの児童が自分の記録を更新し、縄跳び・長縄でも精一杯頑張っていました。練習を上回るような結果だったり、思うような結果が出なかったりと様々でしたが、どの児童・クラスも大きく成長した行事となりました。



パナソニック理科授業

パナソニック様にご協力いただき、電気の仕組みについて、特別授業を行いました。本格的な実験器具を準備いただき、白熱灯・蛍光灯・LED電球の発熱具合を調べ、電力消費を調べました。パナソニックの方は、仮説を立てて、その後の反応を予測し発表する子どもたちの反応に驚かれました。企業の方に授業を行なっていただくことで、子どもたちの理科への関心が、ますます高まっています。



スターフライヤー航空教室

キャリア教育の一環で、北九州市に本社を置くスターフライヤー様にご協力いただき、5・6年生対象で航空教室を開催していただきました。全体会で会社概要説明の後、パイロット、整備士、CA、グラウンドスタッフの4つのブースに分かれて細かくご説明いただきました。実際のパイロット席での操縦の様子を見せていただいたり、手荷物を預かるシュミレーションを体験したりと、様々な工夫をしていただき、子どもたちは、真剣に講義にのぞんでいました。

幼稚園通信



楽しい音楽会

音楽教室の講師の方をお招きしてコンサートが行われ、エレクトーンとピアノの演奏を聞きました。エレクトーンから動物の鳴き声や楽器の音が鳴ると「え？？どうして？」と不思議がっていました。ディズニーメドレーやげんこつ山のたぬきさん、リズム遊び等も楽しみました。音楽を聞いていると自然と体を揺らしリズムをとる姿もありました。実際にエレクトーンにも触れました。ペダルやボタンを見つけ、ピアノとの違いも発見していました。ペダルを踏むと「音が出る」とびっくりしていました。楽しい音楽会となりました。



年長組 修園旅行

2月16日、17日に年長組が山口県の西長門リゾートホテルに修園旅行に行きました。サファリランド、テーブルマナー、大きなお風呂に海辺の貝殻拾いを楽しみました。夜のお楽しみ会では各クラスで出し物を事前に考え披露しました。マジックや踊り、ものまねなど楽しい時間を過ごすことが出来ました。修園旅行後に子どもたちが作文を書きました。

しゅうえんりようこ

2がつ16にち、17にちにしゅうえんりようこに
いきました。

わたしがさふありらんどでおしよくじちゅうに
れつさーぱんだがいました。

にしながとりぞーとほてるにとまってかいがら
ひろいをしました。

にしながとりぞーとほてるのおふろはひろくつ
てみんながはいってもひろかったです。

あつという間の二日間、卒園前に楽しい思い出が
また一つ増えました。



新入園児対象

園解放をしています

4月から入園されるお子
さんを対象に園開放日を設
けています。たまごクラブ
のお部屋がにぎやかに模様
替えです。保護者の方と一
緒にお部屋で好きな遊びを
楽しんだけけます。

また平成30年度も未就園
児たまごくらぶを4月から
を予定しています。ホーム
ページでお知らせさせてい
たきます。



風あげの様子

年長児が保護者の方と一緒に風作りをしました。絵画教室の一貫で和紙や竹ひごを使って昔ながらの風を作っています。絵は事前に子どもたちが絵画教室で描き、組み立てを保護者の方と行いました。後日グラウンドで風あげを楽しみました。「すごい!!!」空まで届きそう!!!と大喜びでした。その様子を見た年少さんも紙で風を作り遊ぶ姿もありました。昔ながらの伝統遊びを楽しむことが出来ました。



法話

浄土真宗本願寺派

円光寺（北九州市）

住職

日野正照師

生かされて生きる



二十代の頃、私は宗門校の大学の講義で「生かされて生きる」という言葉に出会いました。私はこの言葉を初めて聞いた時、何ともいえない違和感を覚えました。なぜなら、人間は生かされているのではなく、「生きていくのだ」と思っていたからです。私の身体の中に息づくいのちは、常に生きよう生きようというエネルギーに満ちあふれ、身体の奥底から湧き出ているのだと感じていましたので、この「生かされて」という表現は、何とも消極的な言葉だと感じたのです。若かりし頃は、そんな感じで浄土真宗に触れていましたので、「生かされて生きる」という言葉が実感として私の口から出る事はありませんでした。

しかし、あつという間に二十代も終わり、三十代に入ってから少しずつ老いを感じるようになってきました。春、夏、秋、冬、何度何度もこの季節の移り変わりを経験し、いつの間にか四十八歳。五十歳も目前になってきました。あれ程良かった視力も衰え始め、老眼鏡を掛けるようになりまして。仕事柄よく正座をするためか、時折立てないほどの膝の痛みに襲われることもあります。数年前に中耳炎の手術を受け、十日間の入院もしました。親しかった友人の何人かは病気で亡くなりました。月日の流れと共に、いのちの感じ方も随分と変わってきました。

改めて思います。今まで元気でいるのが当たり前、目が見えるのが当たり前、元気に歩けるのが当たり前だと思っていました。よくよく考えてみますと、恵まれていたからこそ、何事もなく過ごせていたのです。そのことに気づかずにいたから、人間は生きているのだという驕った見方をしていたのだとした。傲慢な考えだったと今思えます。

できたのです。生まれてきた事からすでに大きな恵みであるはずなのに、そのことを忘れ、生きていることが当たり前だと勘違いしていたのです。過ぎ去った歳月中で、何かを失いながらそのことに気づかされたことです。誠に「生かされて生きている」私でした。

人身受け難し、
今すでに受く。
仏法聞き難し、
今すでに聞く。
この身今生において
度せずんば、
さらにいづれの生においてか
この身を度せん。

聖典の最初にあります『三帰依文』のお言葉が身に染みてまいります。今では仏様のみ教えに出遇えたことを慶べる身にお育て頂けたことが、何よりの人生の慶びとなりました。

称名

三賢女子中学校・高等学校ホームステイ

本校の姉妹校である、韓国の三賢女子中学校・高等学校の生徒さんと先生方が1月17日（水）～19日（金）の3日間、本校に來校されました。初日は鎮西別院にて歓迎式典を行い、記念品の交換や、歓迎パフォーマンスの披露、三賢の生徒さんによるダンスも行われ、大変盛り上がりしました。2日目は学校で授業などを体験しながら、交流を深めました。短い期間でしたが、同世代の海外の方たちとの交流を通して、生徒たちはいろいろな刺激を受けたようです。このように、敬愛中学校・高等学校では、国際理解教育を充実させ、日頃の授業では学べないことを学び、視野を広げ、将来は世界視野で物事を考えられる人を育てていきたいと思っています。

また、三賢の生徒の皆さんは、2泊3日で本校の生徒の自宅にホームステイをしました。ホストとなった生徒たちは、居心地よく過ごしてもらえるように、ひとつでも多く日本文化を体験してもらえようと、おもてなしをしてくれました。ホスト役のご家族の協力により、大変充実したホームステイとなったようです。カムサハムニダ！



卒業生からのメッセージ

平成8年度卒業 松浦 香織さん

鎮西敬愛学園に通うみなさん、はじめまして。平成9年3月に鎮西敬愛高校を卒業しました、松浦香織といいます。今2人の子どものお母さんをしながら『べすば』というバンドで歌を歌っています。

私は山口大学教育学部数学科を卒業しましたが、勉強したことで違うことを仕事に選びました。バンドを結成して今年で18年、これまでにオリジナル曲を収録した4枚のアルバムCDをリリースし、イベント・地域のお祭り・幼稚園や学校・子育て支援センターなど、

声がかれば楽器を手に積み込んで歌の旅に出かけています。先日、未就園児とその母親が集まる会でコンサートをしたとき、帰り際に赤ちゃん連れのお母さんから「救われまして、ありがとう」という言葉をもらいました。私が日々何を感じているかをよく見つめて、誰かの暮らしにそっと寄り添えるような歌を歌っていききたい、とこのとき心から思いました。

この春からは、息子が卒園した幼稚園で音楽の指導をすることが決まりました。小さな子どもたちと音楽をどんなふうに楽しもうかと、新しい暮らしのはじまりに胸が高鳴る思いです。40才を目前にして、続けてきた音楽の活動と大学で学んだことが少しずつつながり始めました。何かを選ぶことはその先の誰かと出会うこと。自分がわくわくすること続けていくと、たとえ少し遠回りしても、未来はとびきり素敵なことを準備して明るく待っていてくれるのだと信じています。新しい仕事に大切に向き合っていきたい、と気持ちを新たにしていると。高校時代は、昼休みになると礼



拝堂のピアノで友人たちと音楽を楽しんでいたのを思い出します。あの頃の仲間たちは今それぞれが違う町に暮らしていますが、私が何かに答えを出せないとき、とても客観的に冷静に心あるアドバイスをくれます。そんな仲間に出会えたことが、私の何よりの宝です。毎朝別院に向かってみんなで唱えた誓いの言葉、思い起こすと今も大切にしたいことがつまった言葉たちだと思えます。真心を込めて気持ちにまっすぐ、優しい歌を歌っていききたいです。どうぞみなさん、いい日々を。

児童生徒の表彰紹介

報道研究部

4作品が写真部門で受賞

福岡県高校芸術・文化連盟写真部門

○準特選

「浮かび上がる」

高校3年 山田樹奈さん(柳西中出身)

○佳作

「闇に包まれる頃」

高校3年 山田樹奈さん(柳西中出身)

「これからも一緒」「ラッセンの如く」

高校3年 銀羽紗良さん(敬愛中出身)

「じゃぼんだま」 高校3年 中本勇太郎君(附属小倉中出身)

北九州地区高等学校写真展

○特選

「無垢」

高校3年 山田佳苗さん(敬愛中出身)

○準特選

「ハンター」

高校3年 銀羽紗良さん(敬愛中出身)

○入選

[GAMI] 高校3年 金子綾乃さん(菊陵中出身)

全国児童生徒作品

本願寺が主催する第61回全国児童生徒作品展において、本学園の児童・生徒が各部門で特選を受賞しました。

【絵画の部】

小学4年 古賀理子さん

小学6年 東沙羅さん

【作文・詩の部】

中学1年 迫田実夢さん(敬愛小出身)

中学2年 大谷知菜美さん(敬愛小出身)

人権に関する標語入選作品

☆福岡県私学協会主催

第21回人権意識高揚のための標語

違う国 産まれてきたのは 同じ星

高校2年 渭川建君(思永中出身)

☆北九州市主催

平成29年度人権週間標語

ありがとう 心をつなぐ パスワード

高校1年 酒井友也君(柳西中出身)

21世紀型スキル育成へ 新しい取り組み

生徒の21世紀型スキル育成のため、社会との関わり合いを増やすことを今年度から「地域企業連携学習」という形で取り組みを行いました。「地域企業連携学習」では、地域の方々や民間企業などから講師を招き、社会の課題と向き合い解決する方法をグループで考え、その考えをプレゼン発表しました。生徒たちはこの時間を通して、グループで協力することの大切さや社会のしくみを考える機会となったようです。来年度はさらに充実した取り組みとなるよう改良していく予定です。

21世紀型スキル

国際団体 ATC21s によって定められた21世紀以降必要とされる能力で4つのCで表される

Communication (コミュニケーション)

Collaboration (協働)

Critical thinking (批判的思考)

Creativity (創造)



取り組みを通しての生徒の感想

総合学習で学んだことは、グループで協力し、出された課題への取り組みの姿勢です。最初の頃は、みんなバラバラでなかなか進むことができませんでした。回数を重ねるごとに、みんなの心が一つになっていき、相手の意見を尊重していくようになりました。グループで協力しあって取り組むことができ、新しい知識や社会のしくみを考えることができました。

山本涼介君(松ヶ江中出身)

総合の時間を通して、今まで考えたことがなかったことを考えたり、調べたりして、とても良い経験ができたと思います。実際にフィールドワークに行つて、インタビューをしたり、全体の前で発表をしたり、自分の苦手なことにもちゃんと挑戦することができました。他のグループの発表を見て、自分たちのグループとは違った考え方をしていたり、まとめ方にも色々な工夫があり、自分の考えを広げることができたと思います。

小寺南さん(敬愛中出身)

いただいた課題に沿って調べていくにつれて、結婚についてたくさん知ることができました。自分は結婚がしたいなと思いました。私たちが考えた案が少しでも実現されて、結婚式をする人が増えてくれれば良いなと思いました。みんなで協力できて楽しくできたので良かったです。

添田京伽さん(守恒中出身)

最初は何からどう手をつけていいかわからず手探りでしたが、しだいに考えもまとまってきて、グループとして団結できたと思います。企画やプレゼンなどしたことがなかったですが、なんとなくわかることができました。仕事がどれだけ大変かを知ることができました。山田素子さん(彦島中出身)



～ Dance Exhibition ～



高2女子ダンス発表会

2月23日(金)、鎮西別院にて高校2年生女子によるダンス発表会が行われました。

高校2年生の女子には、ダンスの授業が週一時間行われています。ダンスのテーマや構成、音楽、衣装、そしてプログラム表まで、全てを生徒自身で考えて創ります。発表会では、それぞれのグループが工夫を凝らしたダンスを披露してくれ、とても楽しいダンス発表会となりました。

最初は自分でも何をしているのか分からないでやっていましたが、段々自分の意見を言えるまでに成長しました。班員みんなで協力しまとめ、早く終わらせることができました。とても楽しい総合学習でした。この総合学習がどこかで活かせられたらと思います。

國廣美有さん(曾根中出身)

○ご協力いただいた地域・企業の皆様

大里商店街様 北九州市環境未来都市推進部様
菅公学生服様 ZOJ 法人 Neos 様 フクト様
松柏園ホテル様 宗文堂様 セブンイレブン様
東武トップツアーズ様